

宮城・富沢水田遺跡  
とみさわ

- 1 所在地 宮城県仙台市長町
- 2 調査期間 一九八五年(昭60)三月～一九八六年七月
- 3 発掘機関 仙台市教育委員会
- 4 調査担当者 渡部弘美 他
- 5 遺跡の種類 水田跡
- 6 遺跡の年代 縄文時代早期・弥生時代中期・鎌倉時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(仙台)

富沢水田遺跡は仙台市南西部の富沢地区に位置する。面積約八二万㎡を有し、標高九〇～一〇〇m程で、微高地には泉崎浦・山口遺跡等の集落跡がみられる。一九八一年の山口遺跡の調査で平安時代の水田跡が検出されたのが契機となり、その後の調査で弥生時代・中世の水田跡が発見されている。一九八五年、当遺跡を横断する都市計画道路建設に伴い発掘調査が実施され、そ

の結果弥生時代から現代にいたる水田跡を連続的に八期以上検出し、中世の館跡や縄文時代早期末から前期に属する石器群も検出している。木簡は細片も含め四点発見され、水田耕作土下層の砂層面で中世陶器と共に出土した。

8 木簡の积文・内容

(1) [六カ]  
[ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ]

(129)×19×3 019

長方形の針葉樹柱目材で、上端は山形に整形されているが、下端は欠損しており原形は不明である。表裏両面共に風化が激しく、木目が浮き出ている。墨痕は、片面に五文字分確認できるが、他面には確認できない。上から五文字目の部分で欠損しており、墨痕は上部に行くにつれて次第に薄くなる。判読は、墨が木目に沿ってにじんでいるために困難である。

(渡部弘美)

